

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○基本情報			
科目名	原価計算論B（Cost Accounting B）		
ナンバリングコード	E20605	大分類 / 難易度 科目分野	経営経済学科 専門科目 / 標準レベル 会計ファイナンス
単位数	2	配当学年 / 開講期	2 年 / 後期
必修・選択区分	選択：経営経済学部 コース選択必修：情報メディア学科 情報コミュニケーションコース ※入学年度及び所属学科コースで異なる場合がありますので、学生便覧で必ず確認してください。		
授業コード	E043551	クラス名	-
担当教員名	工藤 順一		
履修上の注意、 履修条件	受講にあたっては、特に必要な知識はありませんが、1年生で学んだ簿記の、仕入や繰越商品の 辺りを理解していると、原価計算の理解も早まります。授業は、できるだけ毎回出席してください（欠 席すると講義が理解できなくなる恐れがあります）。自分に合った使いやすい電卓を持参してくださ い。		
教科書	TAC簿記検定講座著『合格テキスト日商簿記2級工業簿記 最新版』TAC出版		
参考文献及び指定図書	随時紹介します。		
関連科目	簿記入門、管理会計論、監査論 原価計算論A		

○基本情報		
授業の目的	前期の原価計算論Aでは、個別原価計算を学びました。後期は、総合原価計算と直接原価計算 を学習します。自動車産業や食品産業等の製造業では、この総合原価計算を採用しています。将 来の就職を意識して、この原価計算に取り組んでみてください。同じ規格の製品を連続して大量に 生産する「総合原価計算」では、製品の原価は個別に計算せず、1ヶ月ごとにまとめて計算します。 そこで、総合原価計算では、1ヶ月間に製品を生産するのに要した製造原価をまとめて計算し、1ヶ 月間の生産量で割ることによって製品1個当たりの原価を計算します。 本講義では、「大量見込生産」を行う工企業において用いられる原価の計算方法を学び、それら の原価(コスト)を下げるにはどうしたらよいのか等を理解していただけるようにしたいと考えていま す。	
授業の概要	授業は、テキスト、レジュメを中心に進めます。また、前回講義の後、簡単な練習問題を解いていた だく形で進めていきます。	
授業の運営方法	(1) 授業の形式	「講義形式」
	(2) 複数担当の場合の方式	「該当しない」
	(3) アクティブ・ラーニング	「PBL(課題解決型学習)」
地域志向科目	カテゴリー Ⅲ：地域における課題解決に必要な知識を修得する科目	
実務経験のある教員に よる授業科目	担当教員は、 税理士資格を有しており、またシニア・インキュベーション・マネージャーでもありま す。これまで、大分県内のいくつかの企業のコスト削減の支援をしてきました。原価計算授業の中 では、問題を解く中でこのような経験もお話しできればと考えております。また、企業の経営者にも 来ていただいて、コスト削減努力についてお話をいただきたいと考えています。	

○成績評価の指標		○成績評価基準(合計100点)		
到達目標の観点	到達目標	テスト (期末試 験・中間確	提出物 (レポート・ 作品等)	無形成果 (発表・そ の他)
【関心・意欲・態度】	就職して、上司から「原価を下げろ」といわれても、原価が何 かがわからないと、原価の削減はできません。まず原価への 関心を持ちましょう。	10点	10点	10点
【知識・理解】	次に、原価とはどうやって計算するのか、といった基礎的な知 識を身につけ、理解しましょう。そのためには、基礎的な用語 に慣れることです。	10点	10点	
【技能・表現・ コミュニケーション】	原価とは何かを知り、その計算方法を理解したら、次には、コ スト削減策を作りましょう。種々の図や公式を理解し、使える ようにしましょう。	10点	10点	
【思考・判断・創造】	最後に、適正な利益を入れた、「コスト削減計画書」を上司に 提示し、説明し、原価が下がるようにしましょう。できれば、日 商簿記検定2級にも挑戦しましょう。	10点	10点	10点

○成績評価の補足(具体的な評価方法および期末試験・レポート等の学習成果・課題のフィードバック方法)
課題レポート等により、授業への取り組み姿勢や理解度を評価します。レポートは、テーマに沿って、自分の言葉で書いて ください。量と質の両面から評価します。課題のフィードバック方法は、グーグルクラス等により、次回の講義までに、課題試 験の平均点と分布、課題の解答を添付して配布します。 期末試験により基礎的な知識の習得を評価します。達成水準の目安は以下の通りです。Sレベル:達成目標を満たしてい る。Aレベル:ほぼ満たしている。Bレベル:なんとか満たしている。Cレベル:一部分満たしている。なお、期末試験は、授業 の中で学んだ内容について、幅広く出す予定ですので、14回目の授業の中で、期末試験についても説明しますので、必ず 出席してください。

○その他
教員との連絡方法:研究室に気軽にお越しください。また、質問のある方は、グーグル クラス等で何でも質問してください。

2025年度 授業シラバスの詳細内容

○授業計画		科 目 名 担当教員	原価計算論B（Cost Accounting B） 工藤 順一	授業コード	E043551
学修内容					
1. 総合原価計算の定義					
原価計算論Aで学んだ個別原価計算に対して、原価計算論Bでは、大量生産の企業に適用される総合原価計算を学習します。この個別原価計算と総合原価計算を比較して学習します。					
予習		個別原価と総合原価の違いについて、予習してきましょう。			約2時間
復習		総合原価計算について、メリットとデメリットを確認しておきましょう。			約2時間
2. 単純総合原価計算の計算					
総合原価計算のうち、1種類の製品を連続して大量に生産する企業が採用している「単純総合原価計算」について学習します。最初は、原価の基本的な計算方法を学びましょう。					
予習		単純総合原価計算とはどのような原価計算なのか、調べてきましょう。			約2時間
復習		練習問題を出しますので、解いてきてください。解答は次回の授業の中で説明します。			約2時間
3. 月末仕掛品原価と完成品原価の計算					
原価計算では、単価に数量を掛けて原価を計算します。そこで、最初に、単価の考え方を学習します。単価の考え方には2つあります。「先入先出法」と「平均法」です。 この2つの単価の考え方に基づいて、月末の仕掛品原価を計算します。その後、完成品した製品の原価を計算します。					
予習		月末仕掛品が存在する場合、先に月末仕掛品原価を計算する理由を調べてきましょう。			約2時間
復習		期末仕掛品原価の練習問題を解いてみてください。解答は次回の授業で説明します。			約2時間
4. 月末仕掛品原価の計算(1)					
原価計算を行うにあたり、総合原価計算では、直接材料費と加工費に分けて計算します。特に、加工費においては、仕上がり具合に基づいて、進捗(しんちょく)度、完成品換算数量という考え方を用います。これらの用語の意味や、簡単な原価計算について学習しましょう。					
予習		直接材料費と加工費とに分ける理由について調べてきてください。			約2時間
復習		練習問題を出しますので、解いてきてください。解答は次回の授業の中で説明します。			約2時間
5. 仕損・減損					
製品の加工中に原材料の一部が蒸発・粉散・ガス化・煙化などの原因によってなくなってしまうことがあります。このなくなってしまった原材料の原価を「減損費」といいます。 同様に、製品が規格を満たさない不合格品が出る場合もあります。これが仕損です。これらの減損費や仕損品の費用計算を行います。					
予習		原価とは使ったお金の集積ですが、減損等は原価に含まれるかどうか調べてきましょう。			約2時間
復習		練習問題を出しますので、解いてきてください。解答は次回の授業の中で説明します。			約2時間
6. 工程別総合原価計算					
企業のよっては、製品の製造を2つ以上の工程に分けて行う場合があります。たとえば、クリームパンを製造する場合は、パンを製造する工程と、クリームをパンに付ける工程に分けます。原価計算は、第一工程と第二工程に分けて、原価計算します。					
予習		工程別原価計算の工程がどうして発生するのかを調べてきましょう。			約2時間
復習		練習問題を出しますので、解いてきてください。解答は次回の授業の中で説明します。			約2時間
7. 組別総合原価計算					
同一工場内で種類の異なる2種類以上の製品を連続して大量に生産する企業で用いられる、組別総合原価計算について学習します。					
予習		工場の中で組別に製造する製品はどのようなものかを調べてきましょう。			約2時間
復習		練習問題を出しますので、解いてきてください。解答は次回の授業の中で説明します。			約2時間
8. 等級別総合原価計算					
等級別総合原価計算とは、たとえば、TシャツのようにS、M、Lといったサイズが異なる製品を連続して大量に生産する企業で用いられている総合原価計算です。等価係数について学習します。					
予習		等級製品について、あなたのまわりの製品の中から調べてきてください。			約2時間
復習		練習問題を出しますので、解いてきてください。解答は次回の授業の中で説明します。			約2時間

○授業計画	科目名 担当教員	原価計算論B（Cost Accounting B） 工藤 順一	授業コード	E043551
学修内容				
9. 標準原価計算				
標準原価計算について学習していきます。標準原価計算は名の知れている大企業をはじめ、多くの製造業で採用されている原価計算の手法です。原価をいかに削減し、質の高い製品を安く作るかということは製造業にとって重要な課題となっています。				
そのためには原価を削減するための有効な原価管理が必要不可欠となりますが、このような原価管理のための原価計算の方法として標準原価計算があります。				
予習	標準原価と目標原価の違いを調べてきてください。			約2時間
復習	練習問題を出しますので、解いてきてください。解答は次回の授業の中で説明します。			約2時間
10. 標準原価計算(2)				
次に、差異分析の具体的な計算方法を学習します。具体的には、直接材料費、直接労務費に関して差異分析を行います。当月の生産が終わると、あらかじめ算定した製品1個当たりの標準原価（原価標準）に数量を掛けて完成品、仕掛品および当期投入分の標準原価を計算します。そして、月末には当月において実際に発生した原価を集計します。そうすると、標準原価と実際原価との間に差額がでますから、標準原価差異を計算・分析します。この差異について、差異の計算方法等を学習していきます。				
予習	標準原価との差異はどのように製造原価報告書に載るかを調べてきてください。			約2時間
復習	練習問題を出しますので、解いてきてください。解答は次回の授業の中で説明します。			約2時間
11. 直接原価計算(1)				
直接原価計算は、短期利益計画目的において、利用される原価計算です。これは、原価を変動費と固定費とに区分して、売上高から変動費だけを差し引き、限界利益を算定します。				
予習	固定費と変動費とはどのような基準で分かれるのかを調べてきましょう。			約2時間
復習	練習問題を出しますので、解いてきてください。解答は次回の授業の中で説明します。			約2時間
12. 直接原価計算(2)				
直接原価計算の応用として、CVP分析を行います。CVP分析により、費用(C)と売上高(V)と利益(P)の関係をみていきます。特に損益分岐点について学習します。				
予習	CVP分析のC、V、Pの意味するところを調べてきましょう。			約2時間
復習	練習問題を出しますので、解いてきてください。解答は次回の授業の中で説明します。			約2時間
13. 原価の固定分解 高低点法				
高低点法とは、過去の実績データのうち、操業度が最も高い点と最も低い点に着目し、その両者間の原価の動きを直線とみなして変動費率（操業度1単位あたりの変動費）と固定費を計算する方法です。高低点法は生産量の増減と原価の発生を、1次方程式($y=ax+b$)に関連づけて変動費と固定費を区分する手法です。				
予習	1次方程式($y=ax+b$)の解き方について、予習してきてください。			約2時間
復習	高低点法の問題を解いてみましょう。			約2時間
14. 工業簿記の勘定連絡図と財務諸表				
工企業が会計年度末において外部報告用に作成する財務諸表（製造原価報告書）について学習します。それぞれの表のつながりをしっかり学びましょう。				
予習	財務諸表論のテキストをひらいて損益計算書と貸借対照表の役割を調べてきましょう。			約2時間
復習	練習問題を出しますので、解いてきてください。解答は次回の授業の中で説明します。			約2時間
15. 総括演習				
これまでの授業について、総括的な演習問題を解きながら問題点を洗い出します。また。期末試験の試験の対象範囲や問題の出し方について説明します。				
予習	これまで配布したレジュメをまとめて持ってきてください。			約2時間
復習	練習問題を出しますので、解いてきてください。解答は次回の授業の中で説明します。			約2時間
16. 期末試験				
すべての講義に関して総復習の意味でのテストを行います。計算機を持ち込みはOKです。				
予習	期末試験の試験範囲について、練習問題を確認しておきましょう。			約2時間
復習	試験で間違った問題について、再度解答方法を確認しておきましょう。			約2時間